

## 平時の準備が肝要

日本道路

日本道路は、午前9時に南海トラフ地震が発生した想定でBCP（事業継続計画）訓練を実施した。写真。新型コロナウイルス感染症対策のため対策本部の規模を縮小し、本社と支店で計80人が参加した。

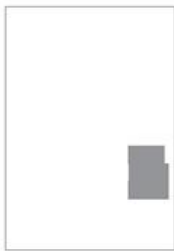
訓練は2部構成で、1部では発災直後の想定で発災直後の従業員の安否確認や事業所などの被害状況報告訓練に取り組んだ。2部では発災2日後の想定で、被災支店への支



援訓練として不足物資の確認や輸送手段の検討訓練を実施した。被災地域が広域にわたると想定される南海トラフ地震では、非被災地域からの迅速かつ的確な支援が必要となることから、従業員が発信し

た情報や各支店の対策本部が集約した情報を確実に全社で共有するため、従来のパソコンを使用したテレビ会議システムだけでなくスマートフォンやタブレット端末、MCA無線などさまざまなデバイスを活用した情報共有訓練とした。

訓練後の講評で久松博三社長は「公的な支援が始まるまでの間の対応をいかに備え、行動していくのかを本社、支店が中心となって平時から従業員全員が準備・訓練しておくことが肝要だ。訓練を契機として、いま一度全従業員それぞれが考えてほしい」と呼び掛けた。



建設通信新聞

2021年03月19日 003面 01版 No.09